

## 2016.9 清心人間生活/予想問題1

安楽死と尊厳死の違いは何か。これらが議論される背景としてどのようなことが考えられるかに触れたうえで、あなたの考えを600字以内で述べよ。

安楽死と尊厳死は、回復の見込みがない患者を対象としている点で共通している。しかし、その目的は異なる。前者は「身体的、精神的な苦痛から解放するために死なせる」ことであり、後者は「人間としての尊厳を保って死を迎えさせる」ことである。つまり、安楽死は作為によって死なせるのであり、尊厳死は不作為によって死を迎えさせることだ。

1960年代までは、このような死の在り方は議論されることが少なかった。医療がまだ十分に発達しておらず、患者は病名の告知も受けず、最後は家族に見守られながら自宅や病院でなくなるケースがほとんどだった。

しかし、医療が発達し、治療行為の延長として患者を末期状態や植物状態のままでも生かしておくことができるようになった。また、人権意識が高まり、自己決定権の一つとして「自分の生き方（死に方）は自分の意思で決める」という考え方が広まった。

そこで、安楽死と尊厳死が議論されるようになった。現在、安楽死は法的に認められていないが、尊厳死にはついては法律で認めようという動きがある。実際に司法の場では尊厳死を認めたケースもある。

私は安楽死と尊厳死についてさらに議論が必要だと考える。確かに、個人の尊厳は憲法上も人権尊重の基礎に位置づけられている。しかし、家族にとって大切な人の死を受け入れるには相当の時間がかかる。よって、法的に認める場合でも、本人の意思や家族の意思が明確に示されているか、苦痛の程度はどうか、どれくらいの時間が経過しているか、など厳しい条件を設けて慎重に判断すべきだと考える。